



長崎県立佐世保北中学校・高等学校

長崎県佐世保市八幡町6番31号

TEL 0956-22-4105/FAX 0956-22-5361

URL <http://www.news.ed.jp/sasebokita-h/>



第1号 平成31年4月25日発行

憎しみと戦う

校長 渡邊 久範

昨年から世界史のこぼれ話を題材にこの原稿を書いてきましたが、今回は一気に近代に飛びたいと思います。

歴史を勉強しているとあることに気づきます。それは時代の変わり目のキーパーソンのほとんどが支配者層（富裕層）から出ているということです。彼らはその時代の支配者層に属しているのでその社会の仕組みを変える必要はないにもかかわらず、改革や革命を行って社会を変革していきます。古代ギリシアのクレステネスやペリクレス、近代ではフランス革命を指導したロベスピエールなど、その例は枚挙にいとまがありません。歴史上の人物の中で私が最も好きな人物の一人ガンジーもそういった一人です。彼はインドの比較的裕福なヒンズー教徒の家庭に生まれ、当時植民地だったインドの宗主国イギリスに留学して、弁護士の資格を取ります。そして弁護士として南アフリカ（ここもイギリスの植民地）で差別されていたインド人の救済のために尽力して頭角を現します。そしてインドに帰国後は独立運動の中心となって活躍していきます。

当時イギリスはヒンズー教徒とイスラム教徒の対立を巧みに利用する分割統治でインドを支配していました。そのイギリスから独立するチャンスが巡ってきます。第一次世界大戦の開戦です。イギリスは戦後の自治を約束することでインドに協力を求めます。ガンジーはイギリスから独立するときはケンカ別れではなく、友達と別れるように独立するという信念を持ってましたので、イギリスの窮地を独立のチャンスとするのではなく、イギリスに協力する方を選びます。しかし戦後はローラット法というインド人を弾圧する法律ができて「パンを求めて石をあたえられた」と表現するようなひどい仕打ちを受けます。それでも決して暴力に訴えずに粘り強く独立を指導していきます。その戦術はサティヤグラハ運動（非暴力・不服従運動）とよばれます。この戦術は世界史上最もユニークで、有効な戦術の一つだと思います。これはイギリスを困惑させ、最終的に独立を認めさせます。

しかし、最後までヒンズー教徒とイスラム教徒の融和を模索するガンジーの努力にもかかわらず、結局ヒンズー教徒の多いインドとイスラム教徒の多いパキスタンに分かれて独立することになります。その際、インドに住むイスラム教徒はパキスタンへ、パキスタンに住むヒンズー教徒はインドへ民族移動することになり、その大移動の際に各地で衝突が起こり、100万人が犠牲になったとも言われています。

リチャード・アッテンボローの映画「ガンジー」のなかで、イスラム教徒を殺してしまったと告白するヒンズー教徒に救いを求められたガンジーが彼にその殺害の理由を尋ねると、息子がイスラム教徒に殺された敵討ちだという答えを聞いて、「ヒンズー教徒に両親を殺されたイスラム教徒の子どもを探して、自分の子どもとして育てなさい」という助言をする場面があります。おそらくフィクションだと思いますが、いかにもガンジーらしい言葉です。憎しみに対して憎しみを返してはいつまでもその悪循環は終わらないのです。

今もパレスチナ問題をはじめ、同じような民族の対立は世界各地にあります。「目には目を歯には歯を」のような考え方では何も解決しません。ガンジーの非暴力の思想はその解決のヒントを私たちに教えてくれているような気がします。

中高合同入学式

高校第1学年主任 米谷 朝子

4月8日（月）は平成最後の中高合同入学式でした。佐世保北中学校第16回生と佐世保北高等学校第74回生は、緊張しながらも堂々とした態度で式に臨みました。体育館に響き渡る大きな声で呼名の返事をし、それはまるで新たな学校生活の決意を表明しているようでした。この入学式の初心を忘れず、これからの高校生活をスタートさせてほしいと思います。北高のスローガンである「輝け 北辰のごとく」ゆるがない北極星、理想とする自分を目指して、北高生活を送っていきましょう。理想の自分に近づくために必要不可欠なことは、「素直さ・明るさ・感謝」です。また、当たり前のことを習慣化し、徹底的に行うこと「凡事徹底」も常に心に留めて実践してください。これからの北高生活を充実したものにできるよう、理想を高く持ち遠い自分の目標に向かって努力できる人、集団を作ってくれることを願っています。



中学1年(16回生) 野外宿泊活動

中学第1学年主任 沢目 孝一郎

4月17日（水）から4月19日（金）まで、中学第1学年16回生120名と引率職員8名は、世知原少年自然の家で野外宿泊活動を行いました。好天に恵まれ、ハイキングや飯ごうでご飯を炊いてカレーを作る炊飯活動やオリエンテーリング、各クラスが出し物を披露するキャンドルファイヤー、保健体育の先生方の指導による集団行動訓練、最終日の沢登りなど、全ての行事を予定通り行うことができました。

県内外の44の小学校から集まった16回生120名は、初日こそ戸惑いが見られたものの、2日目以降は一人一人がそのすばらしい本領を発揮しました。まだお互いによく知らないもの同士が声をかけあって積極的に行動し、ケガをしたり困っている仲間を助けながら行事に取り組む姿に、自然の家山田所長は、『この3日間で、北中・北高で6年間がんばっていく基礎ができた』という言葉で退所式でかけてくださいました。



入学して10日も経たないうちに行われた野外宿泊活動でしたが、保護者の皆様のご協力で充実したものにすることができました。16回生の学年スローガンは、「Set The Bar High!～目標は高く～」です。16回生一人一人の今後のさらなる飛躍を確信しています。

第38回全国高等学校空手道選抜大会 報告

高校空手道部顧問 佐々木 隼

3月25日から27日まで、和歌山県和歌山市のビックホエールでJOCジュニアオリンピックカップ・第38回全国高等学校空手道選抜大会が開催されました。県新人大会で上位入賞し、さらに九州北ブロック大会でも上位に入賞した高校が出場できる本大会で、佐世保北高校空手道部は今年で15年連続出場を果たし、表彰状を頂きました。本大会では男子は平成20年度大会、女子は平成24年度大会に全国3位というすばらしい成績を残しています。今年度は九州北ブロック大会で3位入賞を果たした女子団体形を筆頭に、男子個人形、女子個人形、男子個人組手、女子個人組手部門に出場しました。結果は女子団体形でベスト16、男子個人形で芳賀（3年）が3回戦進出を果たすも、選手達が目指していた結果に届くことはできませんでした。しかし組手・形部門とも、長崎県、そして九州の代表として全力で試合に臨んだことは、確実に部員の今後の糧になったと思います。

今後も部員たちは「全国制覇」を目指して毎日練習に励んでいきます。様々な面で応援くださった本校OB、保護者、生徒、職員の皆様、本当にありがとうございました。



71回生の進路

進路指導部 竹下 敦

昨年度のセンター試験は国語の平均点上昇などによって全体の平均点が上がったことや、高大接続改革に伴う「大学入学共通テスト」への移行を控えて安全志向が例年より強まったことを受け、特に文系にとって難しい入試となりました。また、私立大学が入学定員に対する合格者数を制限する傾向も強くなるなど、最後まで粘り抜くことの大切さを例年以上に強く感じる入試でした。

3月に卒業した71回生は、とても真面目で地道な努力を継続できる学年でした。最後まで進路実現に向けて粘り強く努力し、多くの生徒たちが合格を勝ち取ることができました。特に医学部医学科は過年度生も含めて多くの生徒が合格しました。いずれ県北地域の医療の充実に貢献してくれるものと思います。

<主な合格校> (過年度生含む)

●国立大学●

長崎大学	21
九州大学	17
九州工業大学	9
福岡教育大学	2
佐賀大学	13
熊本大学	11
大分大学	5
宮崎大学	5
鹿児島大学	9
東京大学	1
京都大学	2
大阪大学	1
広島大学	10
山口大学	4
その他の国立大	25

○公立大学○

長崎県立大学	10
下関市立大学	5
九州歯科大学	1
その他の公立大学	15

●国立大医学科●

長崎大学	6
佐賀大学	3
宮崎大学	2
島根大学	1
香川大学	1

●私立等医学科●

埼玉医科大学	1
東京医科大学	1

◎主な私立大学◎

早稲田大学	11
東京理科大学	3
明治大学	7
立教大学	2
中央大学	1
関西大学	1
関西学院大学	2
同志社大学	5
立命館大学	9
西南学院大学	14
福岡大学	23
長崎国際大学	18
活水女子大学	4

<5月の主な行事予定>

8日 【中高】振替休日 【高校】学習会	15日 【中高】教育実習開始
10日 【高2・3】第1回定期考査(～14日)	16日 【中学】第1回定期考査(～17日)
11日 【中高】PTA総会 多数のご参加をお待ちしております。	29日 【中高】市中体・高総体推載式
13日 【高校】第1回定期考査(～14日)	30日 【高校】振替休日
	31日 【高校】県高総体開会式(諫早)

北中14回生海外研修を終えて

英語科 早田 優子

3月23日(土)から3月30日(土)まで、中学2年生33名がオーストラリアのシドニーで海外研修を行いました。異文化に触れ国際的な視野を広げること、高校生での積極的な取組への動機付けや将来への目標設定につなげること、語学力の向上を目指して、毎年春休みに実施しているものです。昨年度より研修先がオーストラリアになりました。

参加する生徒は、この研修に向けて様々な準備をしてきました。放課後の英会話もその一つです。2つのグループに分かれて、放課後に十数回集まって練習しました。海外研修の日々を想像しながらの練習は、生徒たちの胸を一層膨らませる時間となりました。

そして迎えた海外研修。福岡空港を飛び立ち、シンガポールを経由して約21時間。降り立ったシドニーは快晴でした。生徒たちは機内泊の疲れを見せることもなく、まだ夏の香りが残るシドニーの街を観光しました。見るものすべてが新鮮で、写真でよく見ていたシドニーのシンボルを目の当たりにして大興奮していました。生徒の感想の言葉をかれば、『カメラが手放せない1日』でした。海辺のレストランで巨大なハンバーガーを食べ、ホストファミリーの待つ小学校へと向かいました。1人1家庭でのホームステイで、初めて会った、しかも外国人の家庭に一人で行くので不安は隠せません。心細そうに後ろを振り返る生徒の表情が印象に残っています。

翌日から2つのグループに分かれ、それぞれの小学校での研修を開始しました。6日間の滞在のうち3日間は現地の小学生と一緒に学びました。学校では3コマの授業を受けました。2コマはVSOオセアニアの英語教師による授業を受け、残りの1コマは小学生と一緒に授業を受けたり、小学生に日本文化を紹介したりしました。小学生の授業はパソコンを使った授業が多く、宿題もパソコンで提出していました。日本文化の紹介では4、5人のグループで書道や折り紙などについてプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは、放課後に何度も練習をしました。初めは緊張していた生徒たちも、喜んで参加してくれた小学生の表情に、大きな達成感を味わいました。授業の間のランチやアフタヌーンティーの時間は、小学生に混じって遊び、小学生との距離も一気に近づきました。小学生は明るく優しく、時にその行動に感心させられることがありました。一緒に受けた授業では、困り顔の北中生に分かるまで教えてくれました。



また、2日目にはシドニー工科大学を訪問し、学生たちにキャンパスを案内してもらいました。高度な設備が整ったモダンなキャンパスや、そこで学ぶ各国から集まった学生たちの姿を見て、将来の夢が膨らみ、大きな刺激を受けました。

ホームステイ先では食事や習慣の違いに戸惑うことはありながらも、徐々に相手の言っていることがわかるようになってきたり、自分の言いたいことが伝えられるようになってきたり、短い滞在中でも自己の成長を感じた生徒が多くいました。

最終日は、各小学校でお別れ会を開いていただき、贈り物までいただきました。本当に温かく迎え入れていただき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

シドニーを発つ日、朝から各学校に集合し、仲良くなった小学生やホストファミリーに別れを告げ、ブルーマウンテンを観光して帰国の途につきました。別れ際には涙を流す小学生もおり、7泊8日の短い研修ではありましたが、それだけお互いに濃い時間を過ごすことができたのだと思います。

感受性が豊かな時期に異文化に触れることは、子どもたちにとって大人が想像する以上に大きな経験であったと思います。今後の糧となり、いつまでも心に残る体験になったことは間違いありません。生徒たちには、このような貴重な経験をさせてくれた保護者や支えてくださった方々に感謝の気持ちをもって、今回の経験を一過性のものとせず、今後の英語学習につなげて努力を続けていくことを期待しています。

